



平成二十五年二月一日（金）

両門様ご臨席のもと、召見殿（御対面所）にて行われた各講社の年賀式

平成二十六年三月二十八日より三十日迄、三日間下野本寺に於いて秘佛一光三尊佛の御開扉法会が営まれます。宗派にとらわれることなく、遠い昔よりこの地方一帯では「世直し三尊様」として尊ばれ、人々が御開扉を待ちあぐねているのです。本山宗報、新年にあたつてのご法主のお言葉をご拝読申し上げますが、この三尊佛様はまさしく日本佛教の祖佛であること、そして本寺の御本尊として八百年に近づこうとしている歳月のうち、御開扉前の四百数十年間、又ご開扉後のあり様が詳しく書

かれています。世情混乱極まる時代も多々あったでしょうが、どのようにして人々は三尊佛様をお護りしたのか全く知るよしもありません。それはそれは計り知れない命をかけてのことでありましたでしょう。遠い昔より本寺の境内伽藍は多くの寺院、大勢の心ある人々の尊い浄財の寄進により保たれてきたのです。近年に伝わっているお話を一つ申し上げます。今から七十年程前に遡ります。時あたかも大戦の最中でありました。軍司令部より三尊佛像を供出せよとの命令があり、有無を云わさず軍司令部立ち会いのもとに金庫の開扉をせまられたのです。大勢の信徒が見守る中、本山僧侶数名、本寺役員八名及び、金庫職人達が開扉を再々こころみましたが、ついに開けることは出来なかったのです。開扉操作についての真相は全く知るべくもありませんが、命をかけてのことではなかったかと推測させていただいています。その役員達の多くは現在本寺役員の父や祖父達であったことを銘記し

下野本寺輪番
鈴木 明信

一光三尊佛
御開扉にむけて



発行所

真宗高田派宗務院

三重県津市一身田町2819

電話 059-232-4171

FAX 059-232-1414

HP www.senjuji.or.jp



発行部数 35,000部

ておきます。

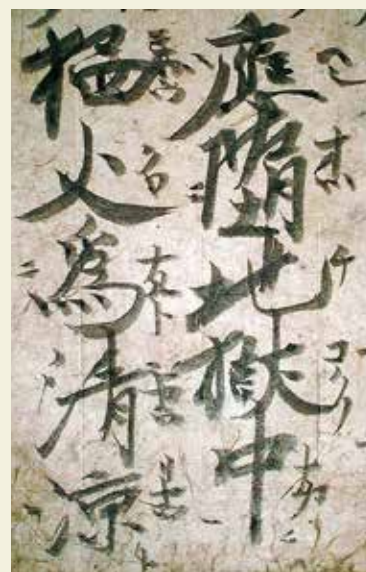
おかげで、今なお三尊佛様は厳然として本寺におわします。御法主殿が申されますように、三尊佛様が扉を開けてお出ましになるのは、み佛ご自身の御意志でありましょう。一人でも多くの人と結縁したいと思し召されるお心を汲んでの御開扉でありましょう。

遠い昔より本寺は常に大勢の人々の参詣が絶えませんが、いつのころからか八月一日～二日、夜を通して行われる「高田まち」お会式には近隣の村々の人々は云うに及ばず、下野、常陸など遠方よりワラジ履きで朝早く立ち、夕刻までに本寺に到着しては各お堂へ宿泊し、翌日帰路に着くと云うことで境内はあふれるばかりのにぎわいを呈していたのです。そして、高田村（本寺周辺）の家々では親類縁者、友連れを交えて二日間、家の中に入れるだけの多くの人々を心を込めて接待したのです。家人はど

この誰か分からない人達が数名その中に居られたが、それは毎年のことであつたと言ひ伝えられています。

人々はみな大悲の海をただよい、そして日々生きることの苦しさに心を失いそうになる時、三尊佛様のみにとままり、心の安寧と生きる力を得て明日へと歩いていったのです。人々は静かにみ佛の前で合掌すること、笙の音と共に浄土から降りそそぐ光の中で三尊佛様の尊いお姿があらわれ、にこやかに「おまかせなさい」とかたりかけて下さることを心から信じて生きてきたのです。「世直し三尊様」は人々を光の中に導いてくださったのです。今、世情はまよいの渦の中で暗く閉ざされているのではないでしょうか。私たちは三尊佛様のおわします本寺を懸命に護持させていただいていきます。そして、子や孫達にその心を日々の暮らしの中で伝えて参ります。

聖人の筆力



これは親鸞聖人八十歳ころの筆跡です。右側の写真は左側の写真の一部分を拡大したものです。太筆で書いたような迫力があります。美濃判紙二つ折りのサイズ（B5判と同じくらい）の紙に書かれており、ずいぶん前から聖人真筆ではないかと考えられていましたが、公表されたのは平成十六年です。そして、平成二十年三月には

じ经文が、經典名を省略せずに記されているからです。真仏上人は建長八年の晩秋のころ上洛して、親鸞聖人を訪ねて多くの聖教を書写していますので、その時と同時期の書写であれば、この聖人の筆跡は八十四歳の筆ということになります。この经文と同様の文言は『観無量寿経』にも説かれています。

「専修寺聖教」八十二点の一つとして、重要文化財に指定されています。

引用文の冒頭に「経言」とあるのは『観世音菩薩往生浄土本縁経』という經典からの引用文です。この經典の名前が直ぐに判明するのは、真仏上人の手控えのノートと考

えられている『経釈文聞書』にも、同様に判明するのは、真仏上人の手控えのノートと考

えられている『経釈文聞書』にも、同様に判明するのは、真仏上人の手控えのノートと考

このように、わざと罫線を無視して筆を運ぶのは、その字を覧る人々に筆者の気概を伝えるための大事な手立てであったようです。これは、親鸞聖人が、当時、中国の宋時代に流行した書法に倣われたことの一つです。

（宝物館主幹 新光晴）

大慈悲に包まれて

「どうせ当たらないんですから、買わないのが一番ですよ。もし当たったら、あなたはそのおどろきと喜びで心臓が止まりますよ。ですから、宝くじは当たらない方がいいですよ。」

某銀行が一千万円以上の宝くじが当たった人を追跡調査したところ、その賞金を健全に使ったり、預貯金にした人は約三割とか。多くの人は、何か無駄な物に使ひ果たしたり、三億円、五億円を夢見て、宝くじ買

今の世の中、多くの人が
幸せの条件に健康やお金や
家族を求めますが、それは
一時的、刹那はつな的なもので、
いつまでも続くものではあ
りません。

……本物の幸せとは何でしょうか。

変わらぬ幸せと永遠とわの歡よろこびを聖人はお示し下さいました。それは本願との出遭であいであります。阿弥陀如来さまは私たち一人一人に必ず救うと誓われました。阿弥陀さまのご本願を信じて、念仏申すところに幸せが開けてまいります。阿弥陀さまの親心、すなわち大慈悲



人生は一生嵐です。嵐の中をただ一人で歩むのではなく、ナモアミダブツで身支度して歩く姿こそ、念仏者の生き方ではないでしょうか。

どんなに苦しいことにぶつかっても、お念仏一つでしゃんと生きていけると思ふと仏法強し、念仏者明るしと感じるのであります。

（鈴鹿市 西方寺住職）

A stylized illustration of a branch with several pink cherry blossoms. The blossoms are five-petaled with dark centers. The background consists of horizontal pink and white stripes.

本山だより発行にご協力をお願い致します。

京 仏 具

お申し込みはこちらから **フリーダイヤル(本店) 0120-27-9595**

振 F 電
A
替 X 話
00
077
155
033
257
011
496
906
335
611

永田文昌堂

ご和讃のお話

栗原 妙直

煩惱具足と信知して

本願力に乗ずれば

すなわち穢身すてはてて

法性常楽証せしむ

(浄土高僧和讃

善導禪師 第十二首)

(現代語訳)

煩惱まみれの我が身を知らされるとき、そんなありのままの私を救ってくださるという本願力を信じ、おまかせするならば、必ず煩惱に汚れた迷いの身を捨てて、煩惱の苦のない、楽しみ常なるさとりを自由を得させていただけるのです。

この和讃は、第十一首の和讃（高田本山だより第九十二号掲載）と共に、阿弥陀仏の本願力によって、私たち凡夫が浄土に往生するすがたを示されたものです。

善導大師が説かれた教えに、「機の深信」と「法の深信」があります。「機」は私たち衆生を指す言葉で、「機の深信」とは、我が身は煩惱まみれで、自力では到底さとりを開くことなどできないと深く知られることをいいます。一方「法の深信」は、救われたい人間であるからこそ、そんな私たちを救わずにはおかないと導き、浄土に往生させてくださるのが阿弥陀仏の本願であると、深く信じることを行います。この二つは阿弥陀仏の本願にまか

せざる信心の両面を表すものとして、「二種深信」と呼ばれます。

「煩惱具足と信知して本願力に乗ずれば」は、まさにこのような機の深信と法の深信が述べられたものです。

「穢身」は、煩惱で汚れた私たちの身体を指しています。また「法性常楽」には、涅槃という意味があります。涅槃とはこの上ないさとり境地のこと、この境地は、生死の苦しみを離れ、苦が永遠にないことから「常楽」といわれます。

ここには、自身のありさまを知らされ、阿弥陀仏の本願にすべてをおまかせして浄土に往生すれば、即穢身を捨ててさとりを開き、仏にならせていただけることが示されているのです。

この和讃は、二種深信の教えによってこのことを知らしめてくださった善導大師を讃えられた和讃であるといえましょう。

(四日市市 誓元寺衆徒)

みんなできてください 参加無料 当日受付 (宗務院)

写生大会

3月23日～4月6日
10:00～15:00

高田本山の風景を描いてみませんか？
受付にて画用紙をお渡しします。
優秀作品は花まつりにて表彰します。

花まつり

4月21日(日) 10:00～

お釈迦さまにささげる
一輪のお花をお持ち下さい。
甘茶をそそぎ、ごうさんと
一緒に寺内町を歩きます。



対象／幼児から中学生まで

お問い合わせ 宗務院教学課

☎059-232-4171 (代表)



高田本山御用達
三重県仏教会御推薦

石碑
記念碑
燈籠



高級御影石専門店

御影石材株式会社

(石に御用の方は)

☎0120-142540

本店 津市広明町(影光寺門前)
☎059-224-1700(代)

お墓

寺標

墓地移転

霊園開発造成

高田本山御用達
全国優良石材店、認定店

創業110余年

株式
会社

ISHISEN
STONES 石仙

(旧(有)山本石材店)

☎0120-67-4114
四日市市近鉄阿倉川駅前 ☎059-331-4114

天親菩薩(下)

御開山聖人は浄土高僧和讃の中で、天親菩薩について十首詠まれています。

その三首目に、「本願力にあいぬれば むなくすぐるひとぞなき 功德の宝海みちみちて 煩惱の濁水へだてなし」と讃嘆なされています。

これは真宗に於いて、最も大事な意味を持った御和讃で、葬儀の時にもよく勤められます。

天親菩薩の『願生偈』（浄土論）の中の、「観仏本願力 遇無空過者 能令速満足 功德大宝海」なる御文をもとに、聖人が御和

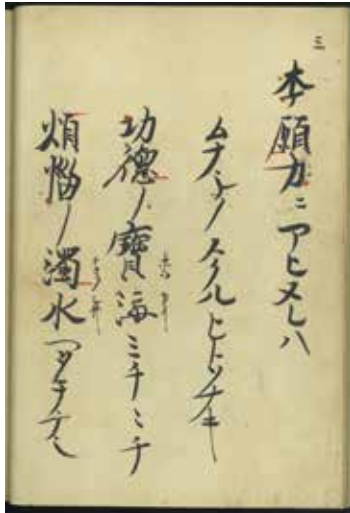
讃になされたものであります。

「あう」という字は、「合」、「会」、「遭」、等ありますが、御本願にめぐめることが「遇」という字で示されています。これは、今まで全く縁もゆかりもなかったものに初めてあうということではなく、既に自分のところにあつたものの、触れていながら気付かなかつたものに、あ、そうであつたかと、遇せていた

が、そこに気付くことで初めて親の恩を知ることができると同じように、私の上に願いをかけられ、私の人生を根底からずつと支えていて下さった阿弥陀仏の御本願に今ようやく目ざめる・・・これが「本願力に遇う」というものであります。

こうして御本願に遇うことができれば、もう人生を空しく過ごしてしまうことはありません。宝の海のような功德が身に満ちて、仏への妨げになることはありませんと聖人は言い切っておられます。

（教学院第三部会）



国宝 三帖和讃（専修寺蔵）
『浄土高僧和讃』天親菩薩 第三首

それ以前から、親の願いは私の上にかけられているものでありながら、気付くことは中々難しいものです

世の中安穏なれ 仏法ひろまれ

社寺建造物彩色、障壁画、仏画、絵伝、頂相画、天井画などの制作と修復・復元承ります。その他石工、木地、漆、箔押、鋳金具など、ご相談下さい。

ものづくりの観点から、あらゆる職種の本物の職人による法物制作のお手伝いをします。

絵所

〒514-0114 三重県津市一身田町2819
TEL:059-232-4171 FAX:059-232-1414
(本山宗務院内 絵所)

絵所頭 安川如風

御本山絵所

御本山御用達

鍵長法衣仏具店

京都市下京区油小路正面東入（中央局区内）
電話 (075)371-0854・8181～2番
FAX (075)344-2701番
振替口座・01070-3-972番 郵便番号600-8344

高田本山御用達

井筒法衣店

社長 幾田潤

京都市下京区堀川通新花屋町角（西本願寺前）
(〒600-8503)

TELフリーダイヤル 0120-075-720
FAXフリーダイヤル 0120-075-490

仏壇・仏具

ぬし与

ホーオーが目印！

六代目 (株)ぬし与仏壇店

桑名本店・四日市店・蟹江店・桑名メモリアルパーク

こんな行事がありました

◆御影堂、平素から御開扉 となった親鸞聖人御影

今まで高田本山では、親鸞聖人御影のお厨子の御扉を勤行の時のみ御開扉する習わしでしたが、今年の報恩講以降

毎日、七時の晨朝から十五時の夕事勤行までずっと御開扉しておくことになりました。一人でも多くの方が、聖人のお顔を拝し、み教えに出遭っていたきたいと願います。

◆修正会での御親給

一月一日の晨朝のお勤めは、いつもより三十分はやく六時半から始まります。法主殿の手で阿弥陀様の御前に年の初めの御仏飯が供えられ、恭敬衆や参詣者とともにお勤めされました。



◆防火訓練が行われました

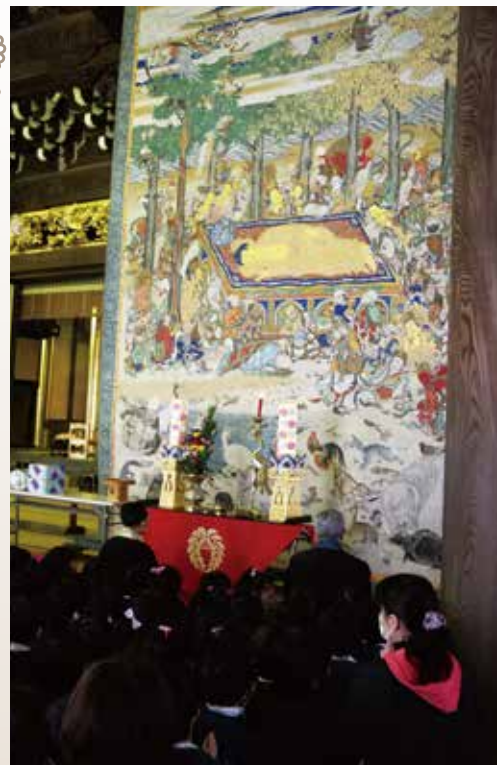


毎年一月二十六日は全国文化財防火デーです。高田本山でも二十五日に防火訓練が実施され、御影堂より出火との想定の下、総勢約百四十人が参加し、重要文化財の搬出訓練や参詣者の救護訓練、地域住民によるバケツリレー、近隣消防署と協力し御影堂への一斉放水などが行われ、防火の意識を高めました。

◆大涅槃図

三月十五日～二十二日に如来堂に釈迦涅槃図が掛けられます。高さ約五メートル六十

センチ、幅約四メートルという大きな涅槃図で迫力満点です。二十一日まで、十時と十三時に絵解きも行われます。



お七夜スナツプ

◆十二日 逮夜



◆十三日 子ども大会

安藤聖一氏による、人形説き



◆十四日 新成人の集い

新成人のお七夜参詣。



◆十五日 法主褒賞式

福井県坂井市 勝光寺前住職 佐々木俊昭様が受賞されました。



◆十六日 御参廟

これからの
本山諸法会

◆讃佛会

三月十七日～二十三日

春のお彼岸にあたる法会です。

み仏のお徳を称え、ご先祖の恩を謝し、法縁を喜ぶ仏徳讃嘆の法会として如来堂での勤行を中心に、二十日には御影堂にて御親教がございます。

晨 朝 午前七時より

お日中 午前十二時三十分より

◆千部法会

四月六日～十二日

第十六世堯圓上人により始められた永代資堂法会であります。

前三日間は新加入者の法会、後三日間は昨年までの加入者の法会が御影堂にて勤められます。

お日中 午前十二時三十分より

◆釈迦三尊仏法会

四月八日

お釈迦さまの誕生された日に合わせ、山門の上におまつりしています釈迦三尊仏の法会が勤まります。

普段は施錠されていますので入ることとは出来ませんが、年に一度この法会のおときには開放され、参詣の皆様にも共

にお参りいただけます。

階段が急なため、動きやすい服装と、お釈迦さまにささげる一輪の花をお忘れなく。

午前十時三十分より

◆十万人講法会

四月九日～十日

第十八世円遵上人により十万人講が設立されたのを始まりとします。御影堂にて二日間の法会が勤まります。

お日中 午前十二時三十分より

◆戦没者追弔法会

四月十二日

午前十二時より太子堂へ参堂の行列があります。

お日中 午前十二時三十分より

◆親鸞聖人降誕会

五月二十一日

親鸞聖人の誕生をお祝いする法会です。お勤めの後には御影堂より御参廟が行われます。

また、親鸞聖人が九十歳まで生きられたことより、聖人と同じく数えて九十歳を迎えられた方々の祖師寿表彰(男性)が行われます。

お日中 午前十二時三十分より

これからの
本山諸行事

◆興学布教研究大会

四月二十九日

仏教の深みを求めて、高田派僧侶三名が日頃の研究・研鑽の成果を発表していただきます。

聴講無料。どなたでもお越し下さい。

◆檀信徒研修会

五月二十四日

講師 松山智道師
テーマ「親鸞聖人がお示くださるご信心について その3」

◆高田派婦人連合大会

六月二日

高田派各一般寺院の婦人会、女人講の集まりです。

第二十二世堯猷上人のお裏方實明院様御正當お逮夜の日(八月二十一日)にそのお徳を偲びお念仏のご縁を広めようと始まりました。

今回で四十九回目の開催を迎えます。

式典では親鸞聖人と同じ、数えて九十歳を迎えられた女性の祖師寿の方々の表彰が行われます。

東日本大震災 義援金 御礼と報告

東日本大震災義援金へのご寺院さま、お同行さまのあたたかいご協力に心より御礼を申し上げます。

平成二十五年二月十二日までに総額18,248,837円の義援金をお預かり致しました。

震災発生より二年がたちます。

お七夜期間中に開催されたおもてなし広場(一身田商工会主催)にて、東日本大震災関連商品の販売をしていました。その中で、陸前高田の一本松の焼き印が押されたストラップが販売されていました。

高田本山では、義援金の募集ならびに復興支援を今後も引き続き行っていく予定です。

◆東日本大震災義援金

皆様のご協力をお願い申し上げます。



1、ゆうちょ銀行、郵便局からの振込み

- 口座記号番号
00870-2-143063
- 口座加入者名
真宗高田派宗務院(義援金)

2、他行からの振込み

ゆうちょ銀行 ○八九(ゼロハチ キュウ)店
(当)0143063

3、持 参

宗務院まで直接お持ち下さい

親鸞聖人降誕会

三重県史跡名勝「安楽庵」にて

宗旦古流呈茶

そう たん こ り ゆ う て い ち ゃ

平成二十五年五月二十一日(火)
午前十時～午後三時

◎呈茶券(五百円)をお茶席入り口にてお求め下さい。

三尊さまのおはなし

親鸞聖人が下野(栃木県)に現在の本寺専修寺を建立されたのち、そのご本尊を思案して折りました折、聖人の枕もとに一人のお坊さんがたち、「親鸞さま、あなたの願いは成しとげられました。早く善光寺へおいで下さい、私の身体を分け与えましょう。」と、夢のお告げを受けられます。聖人は喜び、翌朝善光寺に向かわれました。そこで授かつてこられたのが、高田派の光三尊仏です。

三尊さまは本寺専修寺のご本尊として、朝夕お勤めしてまいりましたが、いつのころから秘仏となり拝むことが出来なくなっていました。

また。第十四世堯秀上人が寛永十五年(二六三八)に本寺専修寺において初めてご開扉になり、第十七世円猷上人は享保十四年(二七二九)に一身田の本山に初めて三尊さまをお迎えしてその扉を開かれました。本山で二度目のご開扉法会が営まれたのは、延享二年(二七四五)となり、以来十七年ごとのご開扉が許されることになりました。



本山に先がけ、本寺専修寺 栃木県にて御開扉法会が勤まります。

寺院名

真宗高田派本山 専修寺

三重県津市一身田町2819 TEL 059-232-4171

<http://www.senjuji.or.jp/>

高田本山

検索